

ブレーキフルードエア抜き作業

<警告>

SST(S2000)を使用せずに取替を行うと障害や事故につながることもあるため、必ず SST を使用して取り替えを行うこと。

<注意>

- ・取替実施中はシフトレバーPレンジでパーキングブレーキペダルを踏み込んだ状態で行う。
- ・取替実施中のブレーキフルードの追加は、リザーバのMIN-MAXラインの間を保つ。
- ・取替後、ブレーキの引きずりが取替前に比べて極端に大きくないことを確認する。
- ・取替時、ブザーが作動するが、作業はそのまま続けること。
- ・ブレーキアクチュエータホース内にエアが混入した状態でポンプモータが駆動すると、アクチュエータ内にエアが噛み込みエア抜き困難となる。ブレーキアクチュエータホース内エア混入のおそれがある作業を行う場合は、予めスキッドコントロールリレーNo. 2(モータリレー)2個をエア抜き手順の取り付け指示があるまで取りはずしておく。
- ・アクチュエータのポンプモータおよびマスタ圧遮断ソレノイドは、補助電源によりIG OFFでも作動可能にある。
- ・エア抜きを行うとスキッドコントロールリレーNo. 2(モータリレー)異常や圧力センサ異常などのダイアグノーシスコードを記憶する。エア抜き完了後およびエア抜き手順中に指示がある場合はダイアグノーシスコード消去を行う。

作業項目別一覧

項目	作業手順
ブレーキフルード(取替)	1. ブレーキ制御(ECB)禁止(取替前実施) 2. フロントブレーキ系統エア抜き 3. リヤブレーキ系統エア抜き 4. アクキュムレータ0ダウン実施
ブレーキマスタシリンダ及びストロークシミュレータ(取替)	1. ブレーキ制御(ECB)禁止(取替前実施) 2. フロントブレーキ系統エア抜き
ブレーキアクチュエータ(取替)	1. アクキュムレータ0ダウン実施(取替前実施) 2. ブレーキ制御(ECB)禁止(モータリレー指定)(取替前実施) 3. フロントブレーキ系統エア抜き 4. ブレーキアクチュエータホースエア抜き 5. リヤブレーキ系統エア抜き 6. アクキュムレータ0ダウン実施
フロントブレーキ(脱着・分解)	1. ブレーキ制御(ECB)禁止(脱着・分解前実施) 2. フロントブレーキ系統エア抜き
リヤブレーキ(脱着・分解)	1. ブレーキ制御(ECB)禁止(脱着・分解前実施) 2. リヤブレーキ系統エア抜き

- ・エア抜きは、必ず記載しているエア抜き部位の順に行うこと。
- ・ブレーキアクチュエータホース内にエアが混入した場合は、必ずエア抜きを行うこと。

1. ブレーキフルード補充

- ブレーキフルードをリザーバに補充する。

2. ブレーキ制御(ECB)禁止

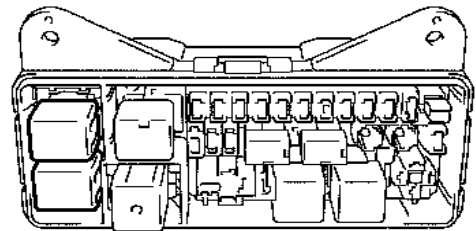
a. SST(S2000)を使用する場合

- IG・SW OFFの状態、SST(S2000)をDLC3コネクタに接続する。
- SSTの電源スイッチをONにして、メニュー(ABS・VSC)→エア抜き→ECB→ブレーキ制御禁止を選択し、実行する。

b. スキッドコントロールリレーNo. 2(モータリレー)を取りはずす場合

- ブレーキ制御を禁止させるため、IG・SW OFFの状態、スキッドコントロールリレーNo. 2(モータリレー)2個を取りはずす。

ブレーキアクチュエータホース内にエアが混入した状態でポンプモータが駆動すると、アクチュエータ内にエアが噛み込みエア抜き困難となる。



P

G26762

3. フロントブレーキシステムエア抜き

- ブレーキペダルをペダリングし、フロントブレーキシリンダRHおよびLHのブリーダプラグよりエア抜きを行う。
- エアが完全に抜けるまで繰り返し行い、RH、LHの順で行う。
- エア抜き後、ブリーダプラグを締め付ける。基準値 $T=8.3N\cdot m$ {85kgf·cm}

4. ブレーキアクチュエータホースエア抜き

- IG・SW OFFの状態、SST(S2000)をDLC3コネクタに接続する。
- IG・SW およびSSTの電源をONにする。
- SSTのメニュー画面より、ABS・VSC→エア抜き→ECB→ドレインを選択し、実行する。
ソレノイド駆動中に、ブレーキペダルをおよそ1秒間に2回の早さで約30回を目安にペダリングを行う。
※ソレノイド駆動中にペダルリングすることにより、ブレーキアクチュエータホース内のフルードがリザーバに押し戻される。ソレノイドの駆動は約30秒で自動停止する。

5. リヤブレーキシステムエア抜き

- スキッドコントロールリレーNo. 2(モータリレー)2個を取り付ける。(モータリレーを取り外した場合)
- SST(S2000)のメニュー画面より、ブレーキ制御禁止を解除する。
(SSTを使用してブレーキ制御を禁止した場合)
- IG・SW OFFの状態、SST(S2000)をDLC3コネクタに接続する。
- IG・SW およびSSTの電源をONにする。
- SSTのメニュー画面より、ダイアグノーシスコードを消去する。
- SSTのメニュー画面より、ABS・VSC→エア抜き→ECB→RL輪を選択し、実行する。
- ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリヤブレーキシリンダLHのブリーダプラグからエア抜きを行う。※ブレーキペダルをペダリングする必要ない。ソレノイド駆動は約30秒で自動停止する。
- エア抜き後、ブリーダプラグを締め付ける。
- SSTのメニュー画面より、ABS・VSC→エア抜き→ECB→RR輪を選択し、実行する。
- ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリヤブレーキシリンダRHのブリーダプラグからエア抜きを行う。
- エア抜き後、ブリーダプラグを締め付ける。

6. アク્યームレータ0ダウン実施

- a. IG・SW OFFの状態、SST(S2000)をDLC3コネクタに接続する。
- b. SSTの電源をONにして、以下の作業を5回繰り返す。
 - i. IG・SW をONにする。
 - ii. SSTのメニュー画面より、ABS・VSC→エア抜き→ECB→アク્યームレータ0ダウンを選択し、実行する。
 - iii. アク્યームレータ0ダウン駆動完了後、IG・SW をOFFにする。
 - アク્યームレータ0ダウンを繰り返すことにより、アク્યームレータ圧の開放・畜圧を繰り返し、アク્યームレータ内のフルードを循環させる。
 - IG・SW をOFF→ONするたびにポンプモータが回転し、アク્યームレータは畜圧される。

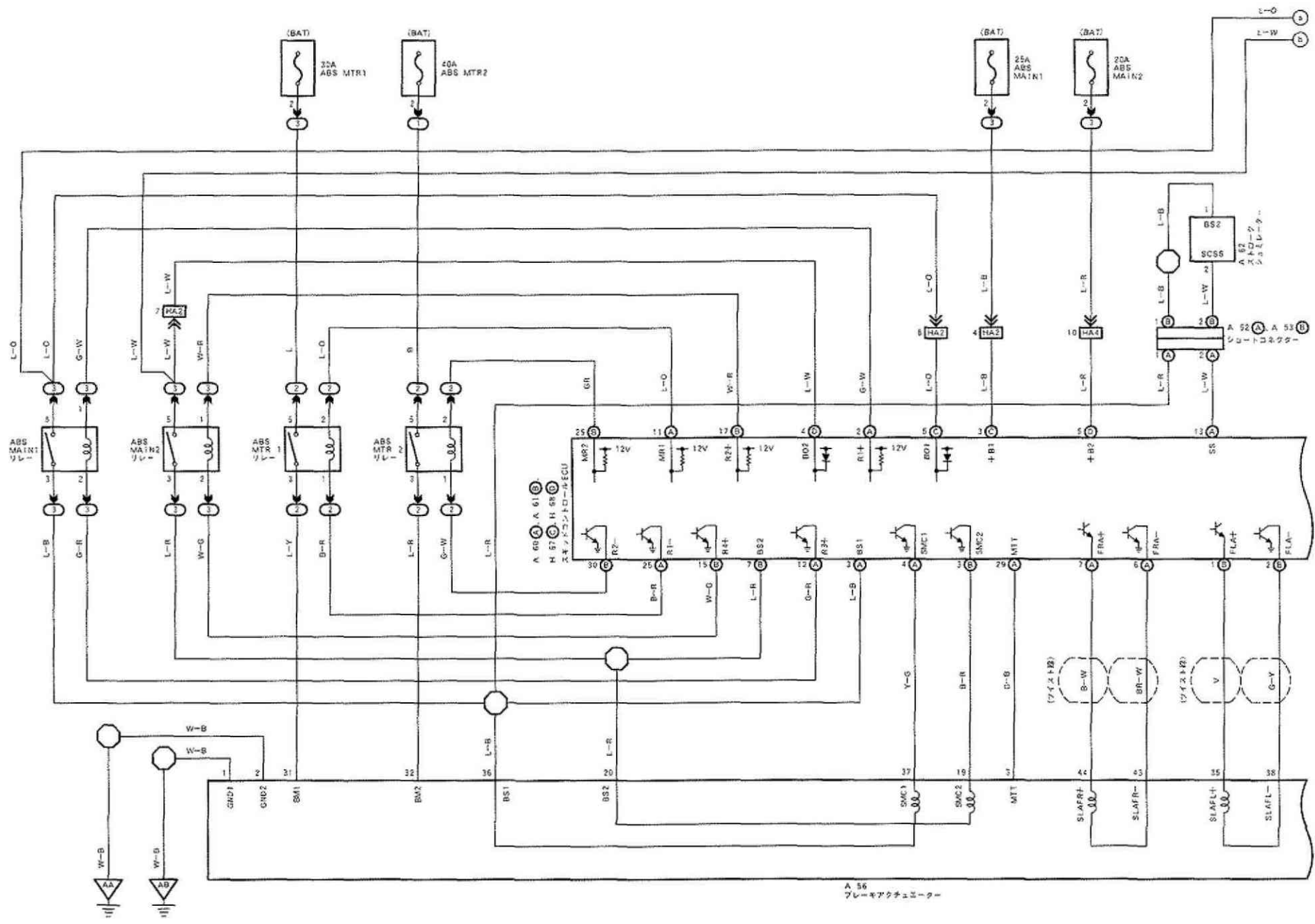
7. ブレーキフルード量点検

- a. アク્યームレータ0ダウン実施後、アク્યームレータ内のフルードをリザーバに戻した状態でマスタシリンダリザーバのブレーキフルード液面がMAXレベルになるようフルードを調整する。
 - アク્યームレータ0ダウン後、IG・SW をONにするとアク્યームレータにフルードが畜圧され、液面は低下する。
 - アク્યームレータ0ダウンを実施せずにフルード量調整を行った場合、アクチュエータからのフルードリリースにより液面がMAXレベルをこえる場合があるが異常ではない。

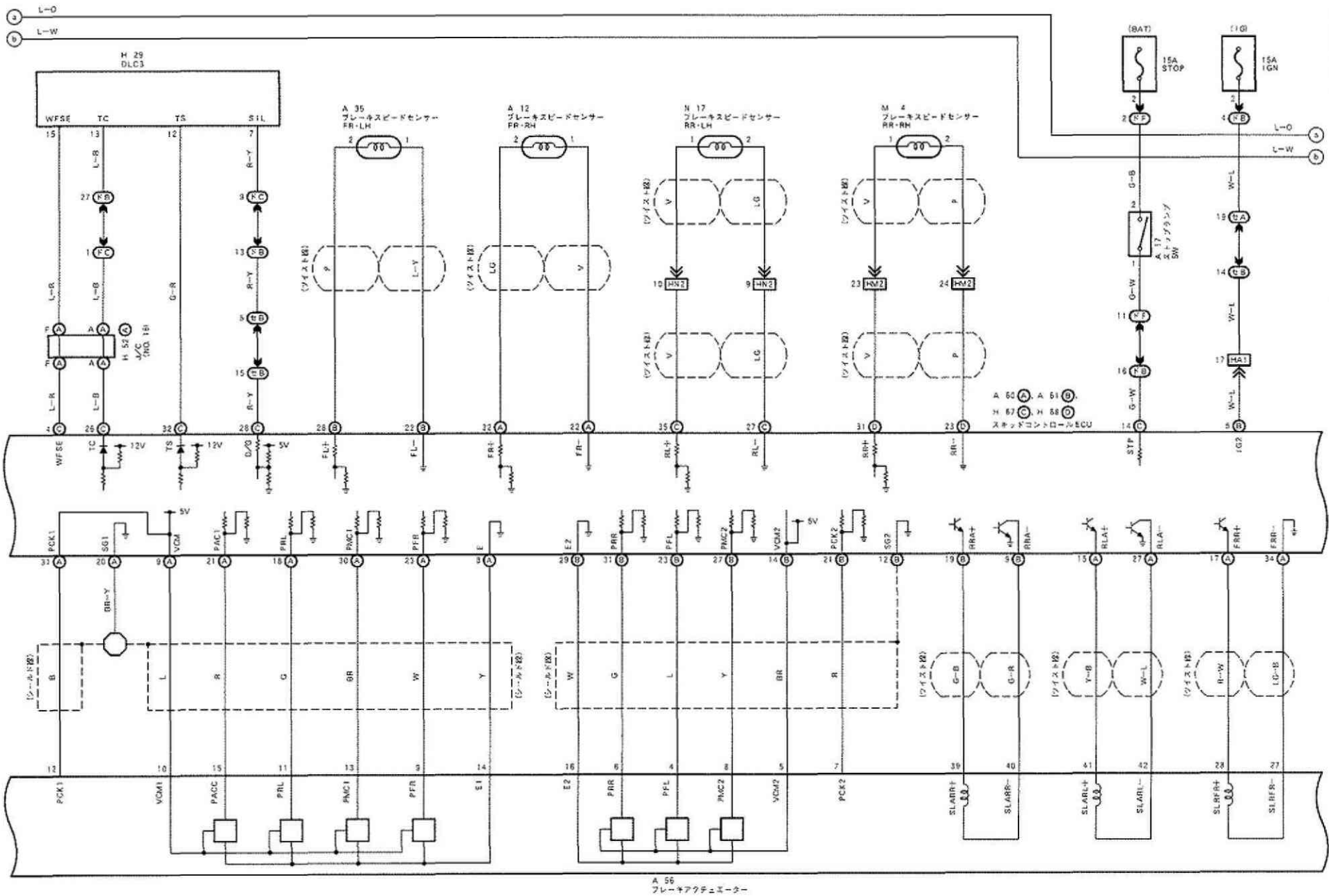
8. ダイアグノーシスコード消去

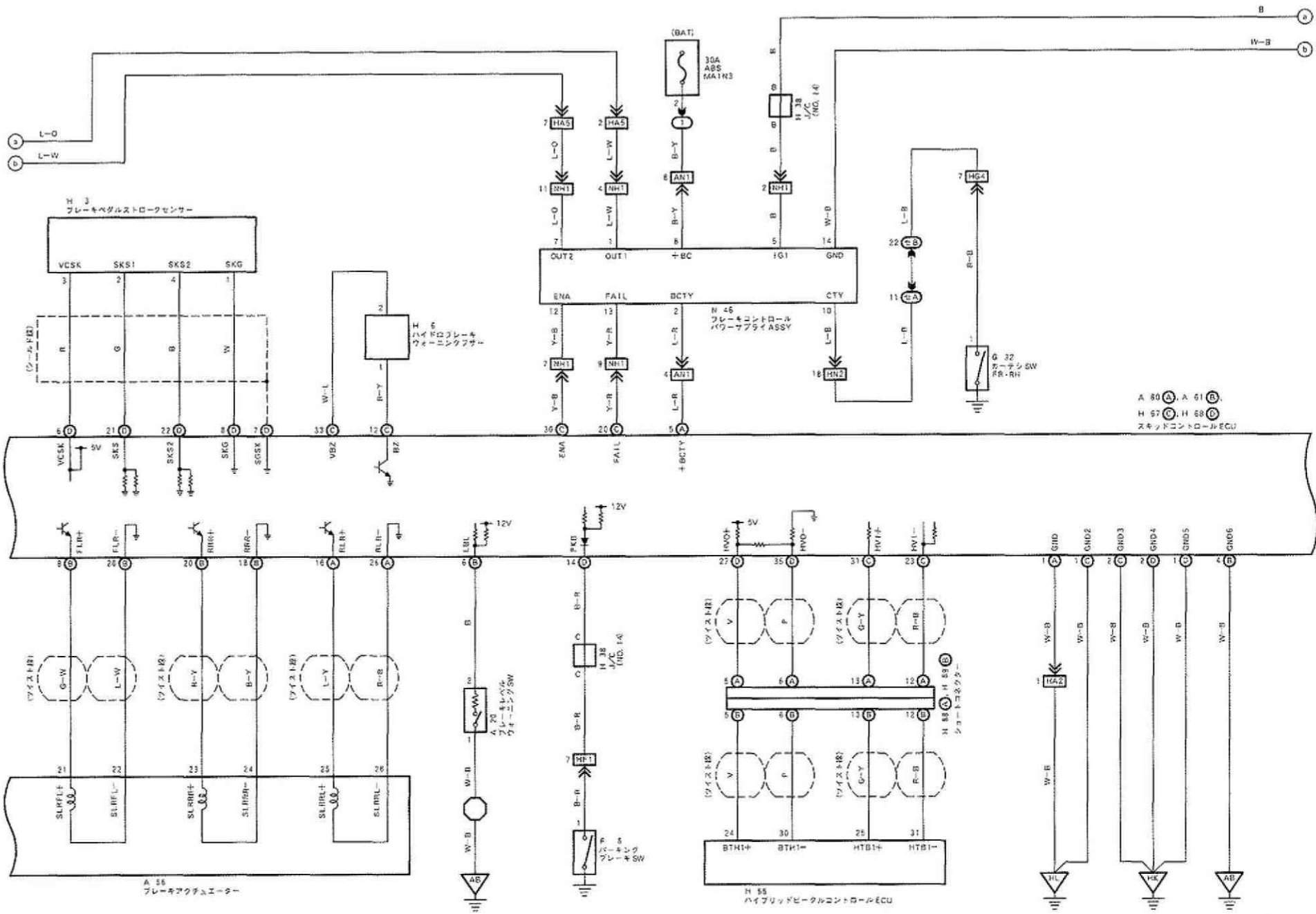
9. リニア弁オフセット学習実施

- a. ストロークシミュレータおよびブレーキアクチュエータ交換時にリニア弁オフセット学習実施を行う。



A 56
ブレーキアクチュエレーター





A 80 (A), A 51 (B)
H 57 (C), H 58 (D)
スキッドコントロール ECU

A 55 ブレーキアクチュエーター

H 55 ハイブリッドブレーキコントロール ECU

